



①成田空港の拡張事業

2029年3月に向けて進行中の成田空港の拡張事業



滑走路

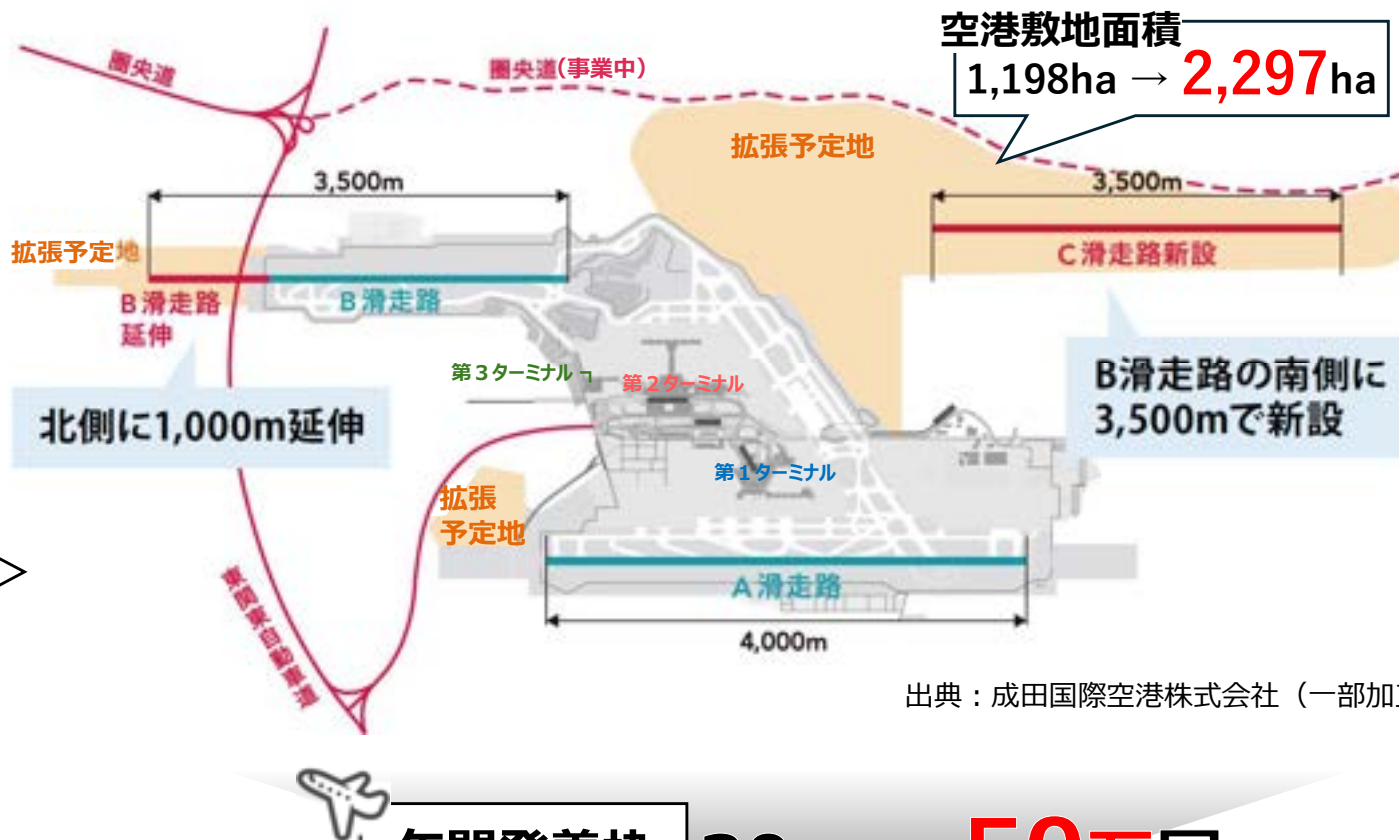
2本

(4,000m
2,500m)



3本

(4,000m
3,500m
3,500m)



運用時間

(夜間飛行制限の変更)

6:00 - 23:00



2019年冬ダイヤ～

6:00 - **0:00**



C滑走路供用後*

5:00 - 0:30

* 飛行経路下における一定の静穏時間を確保するスライド運用を実施

年間発着枠 30万回 → **50万回**

発着回数50万回時に期待される効果



旅客数

年間4000万人

→約**7500万人**



貨物量

年間200万t

→約**300万t**



空港内
従業員

4万人

→約**7万人**



① 成田空港の拡張事業 ～拡張事業により期待される効果の一例～



滑走路の増設（2本 → 3本）

滑走路の増設に伴い航空機の発着枠が30万回から50万回に増えることで…

- ➡ 新たな路線が就航し、**今まで行けなかった国・都市へ行く**ことができる。
- ➡ 直行便が開設され、**目的地までの所要時間を短縮**することができる。
- ➡ 空港の処理能力が限界に達していたため、需要があるにもかかわらず、**これまで受け入れることができなかった時間帯（15時～19時）の便の受け入れが可能となる。**
- ➡ 既存路線の増便（1日1便が2便、3便になること）により、**出発時間・到着時間の選択肢が増える。**
- ➡ 既存路線への就航社が増えることで、競争環境が生まれ、**航空運賃が安くなる**可能性がある。



滑走路の延伸（2,500m → 3,500m）

B滑走路が延伸されることで…

- ➡ 長距離国際線などの重量の大きい航空機の離着陸がしやすくなり、**輸送力の強化**につながる。
- ➡ 延伸したB滑走路（3,500m）とC滑走路（3,500m）とあわせて、離陸／着陸で使い分けることで、円滑な離陸・着陸が可能となり、**目的地への所要時間の短縮**につながる。



運用時間の変更

運用時間が変更（夜間の飛行制限が変更）されることで…

- ➡ 到着時刻の遅い貨物便を受け入れることができ、**荷物の配送時間の短縮**につながる。
- ➡ 夜間及び早朝の旅客便を利用することで、時差のある海外との往来において、**滞在先や日本到着後の時間をより有効に活用**することができる。

※これらは「期待される効果」であり、必ず実現するものではありません。